

食と農のビジネス塾

6、7日「たわらや」での販売実習を見に来てください！

山形大学農学部が、庄内地域の市と町、JA、関係団体・個人と共に取り組んでいる、「地域定住農業者育成事業」の「食と農のビジネス塾」の販売実習が行なわれます。

食と農のビジネス塾

6期生の販売実習で、これまでの塾生が協賛して、いろいろな農産物や加工品、関連製品が販売されます。

基礎、経営、加工、販売、農業技術など、食と農のビジネスを多角的に学びます。

視察研修や販売実習を行い、ビジネス計画書作成で自らの将来を考えます。

2〜3月に募集し、4月に開講します。

【日時】11月6日（土）7日（日）。いずれも9時30分〜14時。

【場所】ふじしま市場「たわらや」2階（天気が良ければテントも設置します）

【地域定住農業者育成事業の紹介】

「農業スタートアップ塾」は、農業技術について科学的な基礎から学びたいという人のために、農学部が授業を選択して受講します。

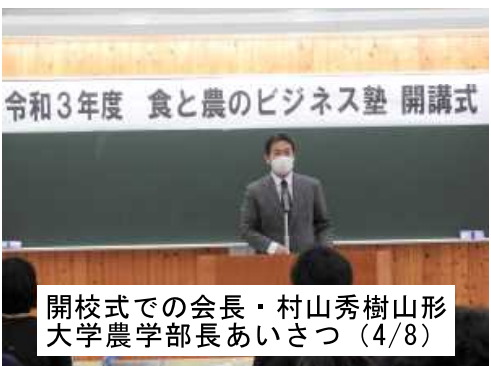
「地域定住農業者育成事業」は、平成28年度から「食と農のビジネス塾」「農業スタートアップ塾」などの講座、よろず相談、情報提供などを行っています。

目的は、新規就農者の就農支援や、農業者のスキルアップ、農学部生の就農意欲の喚起

「よろず相談」は、「栽培している作物の様子がおかしい」という専門的な相談から、「何を相談したらいいだろう」

よろず相談

【連絡先】山形大学農学部 小沢互教授（電・FAX 0235・28・2944）



まで、食や農に関して何でも事務局と専門的知識を持つサポーターが相談のついでいます。

情報提供

「情報提供」は、市と町、県、農林水産省、関係機関が発信する情報を一元的に発信すると共に、関係者の「こんなものが欲しい」「こんなものを提供したい」をつないでいます。

経費は、関係機関の負担金と補助金、会員の会費で運営しています。

会員として参加いただける人を大募集中です。

【連絡先】山形大学農学部 小沢互教授（電・FAX 0235・28・2944）

藤沢周平を読む⑪

鈴木重雄（八色木）

周平は昭和34年8月31歳で三浦悦子と結婚した。当時の結婚年齢にしては少し遅かったと思う。結婚適齢期に大病を患ったからであろう。

三浦悦子は、周平が湯田川中学校に赴任したとき、その学校の3年生だった。教え子ではないが、悦子の姉の慶子が湯田川中学校の教師で、慶子の夫・武弥は山形師範で周平の先輩で、この教師2人の妹が3年生にいることは聞いていた。

悦子は控えめで、目立たない少女だった。姿を見ることはなかっただろう。一度進学のための補習授業で3年生のテストにかり出され、初めて顔を合わせただけだった。

次に彼女が周平の前に現れたのは、周平が東村山の保生園で手術を終え、篠田病院に戻ったときである。

悦子は、母が東京生まれなので、上京して叔父の家に寄宿しながら会社勤めをしていた。周平を見舞いに来たのは、自分の意志ではなく、家の人から言われてきたようだった。

叔父の家は三鷹にあったので、病院からそんなに遠くない。その頃、周平は外出散歩も許可され、天気の良い日は悦子を駅まで送っていったこともある。

悦子は会社のコーラス部に入っていて、歩きながらロシア民謡などを歌って聞かせたりした。

しかし、悦子は周平が退院する前に会社を辞めて帰郷した。彼女はそろそろ結婚かなと思うと、少し落胆する気分だった。周平はまだ退院も決まらず、なんとなく取り残されたような気がした。

その後、周平が就職活動のために郷里に帰るようになって、悦子は結婚せずに働いているので、周平と結婚することになったのである。

結婚は恋愛結婚というより、見合いの末に結婚したようなものだった。

貧しくて共稼ぎだったが、若くて体力もあり苦にはしなかった。周平は新橋まで通勤し、悦子は池袋の会社に勤めていたので、夕方は池袋駅で待ち合わせ、一緒に帰るようにもした。

娯楽と言えば映画を見るくらいで、散歩はよく西部園に行った。最初の子どもは死産だったが、次の子は展子と名付けた。健康に育ち、そういう生活がずっと続くと思った。

比例は「共産党」3区は「梅木たけし」

入秋

蕭索雨風滿嶽河
暑威消去感秋多
星移物換幾迎歲
争奈菊花色褪何

秋に入る

蕭索たる雨風 嶽河に満つ
暑威 消去して秋 感じる多し
星 移り物 換り幾 歳を迎う
菊花の色 褪せるを奈何

城貞(藤の花)

ものさびしい秋風が山川に満ちている。
夏の暑さも消え去り秋のけはいがしのびよってきた。
世の中も移り変わりもう幾年の秋を迎えたのであろうか。
寒さに堪えて咲く菊の花も、時が過ぎれば時が過ぎれば色あせて散るのもどうしようもないのだ。

蕭索もものさびしい。嶽やま。暑威も盛夏。星移物換も世の中が移り変わりもう幾年たったことか。幾もいくつ。争もどうして(反語)。褪も花が散る。奈何もどうしたらよいか。

東栄地区菊花展 10月30日(土)～ 11月3日(水) 東田川文化記念館

東栄地区の菊花展が
10月30日(土)から11月
3日(水)まで、5日間
開催されます。
会場は、藤島地域の



東田川文化記念館。

以前は多くの地域にあつた菊花展が、今では貴重な催しになって

います。

気品に満ちた美しい大輪の菊花を、楽しんでみませんか。

ひと

茨木のり子④

庄内出身・三浦安信と結婚

青山 崇



これ
まで描
く機会
を延ば
して来
てしま
つた夫・三浦元信のことである。

鶴岡市三浦産婦人科
医院の出である。19
18年、7人兄弟姉妹
の3男として生まれた。
1826年生まれの茨
木と8歳違い。旧制鶴
岡中学卒業、7歳下の
同窓に芥川賞作家丸谷
才一がいる。旧制山形
高校から大阪帝国大学
医学部、敗戦の194
5年卒業し新潟医大の
助手になる。結婚した

兄夫婦が新潟にいて、そこに居候した。

私は、元信とは14歳
茨木とは6歳違いだが、
戦後の民主と平和の空
気が満ちた青春を送つ
たのは同じである。

2人の結婚は194
9年、元信31歳である。

続いて1958年に
西東京市東伏見に自分
たちの家を新築した。

茨木23歳、生き方を
求めて青春を歩いた2
人は、ベストセラー『中
国の赤い星』1952
年発売を一緒に読んで
いる。

大学2年の私も読ん
だ。著者は、アメリカ

のジャーナリストのエ
ドガー・スノーである。



「笑う能力」の最後
である。

：あたしねえ ポエ
ムをひとつ作って
彼に贈ったの 虫っ
ていう題

「あたし 蚤かダニ
になりたいの
そうすれば二十四時
間あなたにくつついて
いられる」
はちやめちやな幅の

広さよ ポエムとは

(中略)

山笑う
という日本語もいい
春の微笑を通りすぎ
山よ 新緑とよもし
て

大いに笑え！
気がつけば いつの
まにか
我が膝までが笑うよ
うなっていた

はちやめちやだけど
初々しい自分たちの新
婚を謳っていて微笑ま
しい。蚤・ダニまで愛
しくなる。



地方創生とは？

ある新聞に「候補者の
横顔」という欄があつ
て、3期目を目指すと
いう人の公約に「地方
創生」とあつた。地方
が元気になるなければ
国の発展が無いといつ。
▲その通りだろう。し
かし、これまでの2期
何か元気になるものが
あつたかな？もつと言
えば、幹事長まで務め
た親の数十年の間に、
元気の素となるものを
見せられたんだろうか。

▲この辺の農家が元気
ならばいいんだが…。
親の時代、米を守るん
だとして米の出荷一俵
当たり100円を抛出
していたそうだ。それ
が今は、来年の稲作の
意欲に関わる米価に。
▲これをなんとかして
という声を、国につな
げてよとの願いも、市
議会では「過剰米の市
場隔離」は自公から拒
否されて通らないンダ

デ。当人は中央でどん
な動きを？

▲そうそう・親の代に
は、「日本海の時代」と
いう時もあつた記憶が。
これも地方が元気に・
の事。しかし、新幹線
は新潟止まりで、北進
の話はあるんだろうか。
高速道路もいつになつ
たら新潟・秋田間が繋
がるものやろ。

▲そんな事を思いなが
ら選挙公報を見たんだ
が、新幹線も高速道路
も匂いすらありません
でした。大きく踊って
いたのがコロナの事。

▲アベと菅がやらなか
つた事を現首相はやる
うと言つてないでシヨ。
しかも、病院のベッド
を減らす法案に貴方も
賛成してきたんじゃない
ですかネ。だとした
ら、ここはごまかしに
なりませんか。

▲米作りは未来を語る
んじゃない、若者が勇
んで農業を選択できる
ような政策を見せてヨ。
庄内の票を頂いている
んだからサ。(石川)